

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	保護者アンケートより	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
こころもからだも 元気な子	好きなことをたくさん見 つける	四季を感じる散歩や戸外遊びを通して逞しい体作りを行っている	・季節の自然に触れ五感を働かせていく保育ができた。 ・職員会議でお散歩マップの意味など話し合うがうまく活用、発展させることができなかった。	A	・先生方のおかげで豊かな日常を我が子がおくれています。季節の行事やお散歩や子ども同士の関わり合いなど園で過ごす時間に色々な物を知り、感じているんだろうと思います。これからもよろしくお願いします。	・地域の方と声を掛けあえるような散歩コースの開拓。 ・散歩の目的を皆で共有し発達、興味、関心にそった散歩をしていく。
		面白そうだな、やってみたい、楽しかった、また遊びたいと思える環境が整えられている	・子どもの気持ちに添って、一緒に遊ぶ中で子どもの思いを見つけることができた。 ・子どもたちの今の様子を捉えて環境づくりを考え実行していった。	B		・早登、遅登の環境設定を考える。 ・子どもたちが考え工夫する玩具の提供をし興味、関心、意欲が持てるような関りをしていく。
		子ども一人一人が保育者から愛され安心した生活の中で人と関りながら笑顔で過ごしている	・一人ひとりの思いに寄り添い関わる事ができた。 ・危険な行為以外の場面でも否定的、断定的な言葉があった。そういった言葉を職員間で指摘し合うことが少なかった。	A	・子どもが毎日様がることなく整園できているのは本当に先生方のご対応のおかげだと感じています。いつも楽しい園生活を送らせて頂きありがとうございます。 ・いつも丁寧に大切に関わっていただき感謝しありません。	・否定的な言葉について発する原因、理由も含め具体的事例をだして、検討していく。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	保護者アンケートより	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 保育園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や個人差に考慮した中で、学年目標に向けて保育が進められ、子どもの育ちが見られる	・ケース検討を行い原因、解決方法など話し合うことができ、職員間で共有することができた。 ・発達に關しての知識、認識を深める研修がすすまなかった。	B	・仕事が休みの日や兄弟の用事でも預かってもらえるのが助かります。いいですよ!と快く答ってくれる先生方に感謝です。子どもも保育園に着くと「先生!」と喜んで喜んで毎日いろいろ経験し楽しく過ごしていること、嬉しく思います。いつもありがとうございます。来年度も通わせるのが楽しみです。イベントもたくさん!嬉しいです。	・一人ひとりの育ちや支援の方法を、皆で話し合い、共有していく。 ・スモールステップでゆつたりと関わっていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	個々を取り巻く環境や状況を把握し、安定した気持ちで園生活が送れるよう、生活や遊びの流れを作っている	・保護者と子どもの姿を伝え合うことで、共有する部分も増え、保護者と同じ視点で子どもと向きあうことができた。 ・個々の生活環境は把握していたが、それぞれのスタイルに合わせた関りが薄かった。	B		・それぞれに違う生活リズム、環境を踏まえ長時間保育でも安心して休息できる居場所などを作っていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	試したり気づいたりする楽しさが味わえるような教材提供、環境構成をしている	・玩具の提供の仕方(子どもたちが自分たちで選択し、手に取れる空間など)が検討の余地があった。 ・今の子どもたちの興味があることを把握して、手作り玩具など提供していった。	B	・子どももすくすく育っており日々成長を感じられます。それも先生たちが忙しい中、安心できる対応・環境を提供していただいているからだと思います。いつもありがとうございます。	・今の子どもたちの様子から環境設定、玩具の種類などを適時見直していく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練に取り組み、非常時の対応を身につけていく ヒヤリハットを分析し環境の見直し、整備、点検を行っている	・様々な場面、災害を想定した訓練を実施したが、もっとバリエーションを増やしていきたい。 ・ヒヤリハットの提出が増え、事例も具体的に危険箇所などの周知ができた。	A		・ヒヤリハットで出た事例は素早い周知、話し合いをし、改善していく。 ・訓練のテーマを明確にし課題点を追求していく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	簡単な基本的な生活習慣が身に付けられ健康に過ごせるよう家庭と連携を取りながら個々に援助していく	・手洗いなど子どもたちの行為は習慣化してきたが、保育士の援助が直接的ではなく遠くからの声掛けも多く残念だった。	A	・入口の扉ですが、なかなか出てこれる先生が居らずいつも持ちます。インターホンが鳴り確認しているにも関わらず近づく先生持ちだったり、配膳を行う先生(手袋をつけた)が、わざわざ開けたり、もって意識してはいしです。整園、降園の流れも、多く人がいるとスムーズではなく、少し嫌だなと思うことがあります。帰りの荷物の中にスタンバイしたおむつの中に入った衣類も嫌です。このようなやり方は初めてでビックリしました。子に対する姿勢や想いは大変素晴らしいことに感謝しております。ありがとうございます。	・手洗いなど直接接し、丁寧に伝えていく。 ・保育室の温度、湿度をしっかり管理していく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、職員間で情報共有をし、保護者・関係機関と連携を取りながら、発達や特性に合わせた支援をする	・職員間で子どもの姿、成長を日常的に話し、共有することができた。 ・クラス内での「困った」を職員会議で話し合い意見を参考に、実践し、良い結果になっていった。	A		・個人、クラス内で抱え込まないよう綿やかな話し合いをし、共有して、同じ思いで対応していく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、職員同士が協力して園運営を進めている	・個人の仕事、内容、役割を理解し、責任を持ち、計画的に取り組むことができた。	A		・各分掌の活動報告を期ごとにしていく。 ・仕事内容が形骸化しないように、内容を検討し、新しい取り組みも実施していく。
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修の中で、保育観、目標、研修テーマを共通認識し、子どもの理解を深めながら保育実践をしている	・園内研修は計画に沿って7割くらいは実施でき、新しい気持ちのきっかけになった。 ・公立こども園の公開保育などに積極的に参加できた。	A		・わら・うたを園内研修として取り入れた。 ・会議などで全員が発言できる雰囲気関係づくりをする。 ・研修報告の時間を設定する。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもたちの現在の状態を把握し、発達や興味に合った環境構成、安心・安全な環境ができている	・0、1歳児の臥臥など危機意識が定着してきて、玩具の使用法、時間帯など皆で考慮するようになった。子どもの「今、好きなもの」をキャッチして環境づくりを行った。	B		・異年齢の関りを増やす。 ・手作り玩具を研修していく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と子どもの様子や姿を伝え合い、成長や子育ての喜びを共有しあえる関係を築いている	・連絡アプリの連絡帳の使用に伴い保護者、園ともに記入量が増えた。 ・転んでできた傷なども細やかに伝えていった。	A	・帰宅時、一言でいいのでその日の様子を教えてほしい。	・個人面談などを積極的に行い、保護者との関係を深めていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	連携園の子ども、職員同士の情報交換を図っている	・近隣園などの公開保育、事例検討会に参加し意見交換することができた。	B		・連携園(八幡こども園)、近隣園(小黒こども園など)との交流を増やし関係づくりをしていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方たちと交流する環境を作り、連携を図っている	・子どもたちも積極的に地域の方々に挨拶をしたり、八幡丁目町内会とふれあひ会も実施し交流が少しづつ深まってきた。 ・出前保育が定着してきた	A		・りす組だけでなく、他の年齢も参加できる地域の方との交流会の検討をする